

2026年4月30日

報道機関 各位

世界的に見過ごされてきた感染症「レプトスピラ症」

長崎大学などの国際共同チームが最新の臨床レビューを『Lancet Infectious Diseases』に発表

— 今後、フィリピン拠点を中心に国際共同治療試験の展開へ —

国立大学法人長崎大学は、英国ロンドン大学衛生熱帯医学大学院（London School of Hygiene & Tropical Medicine: LSHTM）、フィリピン・サンラザロ病院などとの国際共同研究チームにより、レプトスピラ症の臨床診療と治療戦略に関する最新の総説論文が、感染症分野の国際的トップジャーナル『The Lancet Infectious Diseases』に掲載されたことをお知らせします。

本論文の筆頭著者は、長崎大学とLSHTMの国際的な連携のもとで研究を進める Nathaniel Lee 氏（長崎大学-LSHTM joint PhD プログラム学生）で、長崎大学からは 熱帯医学研究所(NEKKEN)/熱帯医学・グローバルヘルス研究科(TMGH)の田中健之教授、有吉紅也教授、Chris Smith 教授らが共著者として参画しました。論文は、レプトスピラ症の診断、抗菌薬治療、ステロイド治療、臓器障害への支持療法、そして今後の臨床研究課題までを包括的に整理した、現時点で最も実践的かつ包括的な臨床レビューの一つです。

【発表のポイント】

- レプトスピラ症は、汚染された水や土壌との接触を通じて感染する世界的な細菌性人獣共通感染症であり、特に熱帯・亜熱帯地域、衛生環境が十分でない地域、洪水や人と動物の接触が多い地域で重要な公衆衛生上の課題となっています。
- 世界では年間約 100 万症例の罹患、約 6 万人の死亡が推定され、その疾病負荷は多くの「顧みられない熱帯病」に匹敵、あるいはそれを上回る可能性があります。一方で、診断法の限界、治療エビデンスの不足、国際的な研究・政策上の優先度の低さが大きな課題です。
- 長崎大学は今後、LSHTM やフィリピンの臨床拠点や国立健康危機管理研究機構(Japan Institute for Health Security (JIHS)) を含むその他の海外ネットワークとの連携を基盤に、レプトスピラ症を対象とした国際共同介入治療試験の構築を目指します。これは長崎大学が今後重点的に発展させていく熱帯感染症研究領域の一つです。

【研究の背景】

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラ属菌による細菌感染症で、ネズミなどの保菌動物の尿に汚染された水や土壌への接触を通じて感染します。世界各地で発生しますが、特に熱帯・亜熱帯地域、衛生環境が十分でない地域、洪水が発生しやすい地域、人と動物の接触が多い地域で多く見られます。

本疾患は、軽症の発熱性疾患として発症することもあります。急速に進行して腎不全、重度の肺病変、多臓器不全など生命を脅かす合併症をきたすことがあります。多くの流行地域では、農業従事者、非正規労働者、インフラが脆弱な地域に暮らす人々など、就労年齢層の成人や社会的に脆弱な集団に大きな影響を及ぼします。

レプトスピラ症の影響は、個々の患者の健康被害にとどまりません。発症や入院による収入喪失、流

行時の医療体制への負荷、重症例に必要な透析や人工呼吸管理などの高額な臓器支持療法、脆弱な地域社会への不均衡な影響など、地域の医療システムや経済にも大きな負担をもたらします。

さらに、気候変動に伴う豪雨、洪水、極端気象の増加により、今後レプトスピラ症の流行リスクが高まることが懸念されています。しかし、診断・治療にはなお大きな課題が残されており、国際的な保健政策や研究投資における優先度は十分とはいえません。患者予後を改善するためには、**研究基盤への投資と、国際的に協調した臨床研究の推進**が強く求められています。

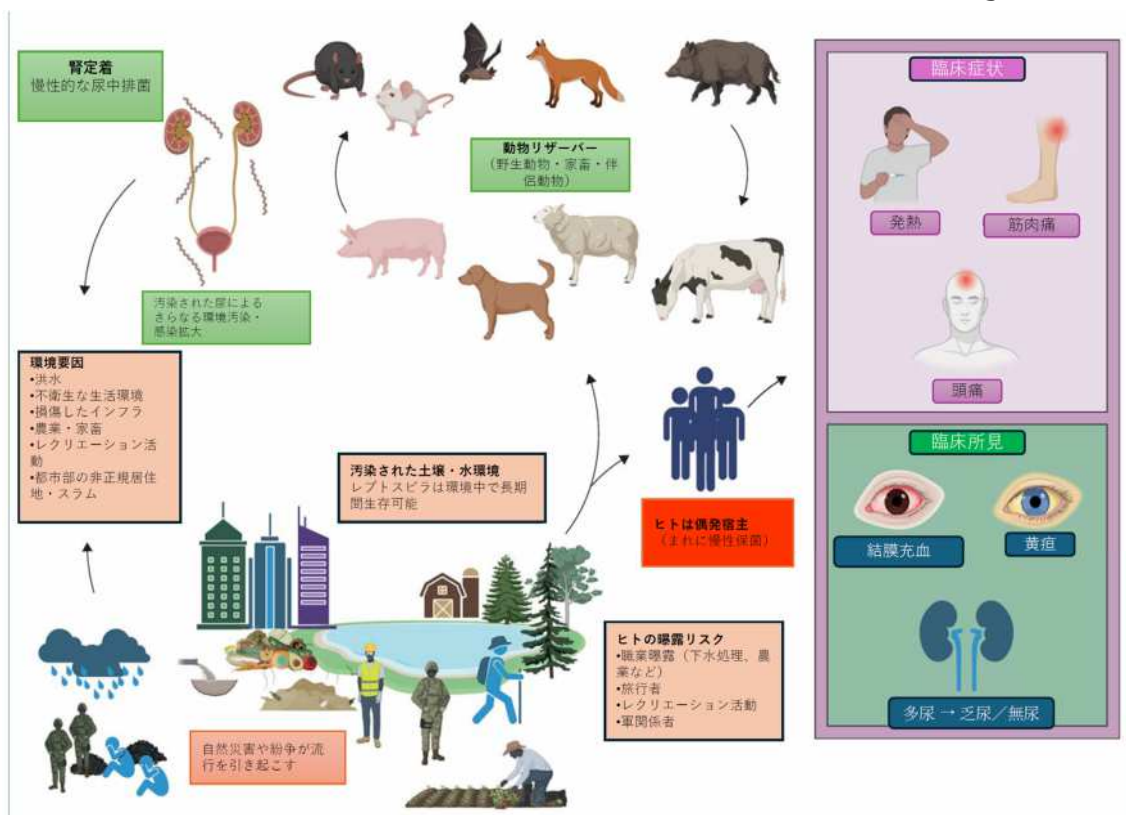
【論文の内容】

本総説は、レプトスピラ症の臨床管理について、以下の点を体系的に整理しました。

- ・疫学的分布に関する現在の理解
- ・診断法の現状と限界
- ・抗菌薬治療および予防投与の科学的根拠
- ・ステロイド治療の臨床的位置づけ
- ・腎障害、肺障害、循環障害、神経合併症、血液学的異常、肺炎などへの支持療法
- ・将来の臨床試験に必要な研究基盤

その結論として、現在さまざまな治療が臨床現場で用いられている一方で、十分に確立された高品質エビデンスは依然として不足していること、そして診療を真に前進させるには国際的な多施設共同試験が必要であることを強調しています。

図1 レプトスピラの感染サイクルとヒトレプトスピラ症の主な臨床像（本論文の Figure 1 を改定）



【長崎大学の役割と今後の展開】

長崎大学はこれまで、熱帯医学および新興・再興感染症分野において、アジアをはじめとする海外研究拠点との国際連携を強化してきました。本研究は、長崎大学、LSHTM、フィリピンの臨床研究パート

ナー施設との協働により生まれた成果であり、今後のレプトスピラ症に関する国際共同臨床研究プログラムの出発点となるものです。

現在、研究チームは、フィリピンを重要な臨床プラットフォームとして、レプトスピラ症に対する介入治療臨床試験の計画を議論しています。将来的には、長崎大学が LSHTM および JIHS と連携し、海外多施設共同臨床試験の実施体制の構築に貢献することを目指しています。今回の論文発表は、そのための学術的基盤を示すと同時に、長崎大学がこの分野で国際的研究ネットワーク形成を主導していく意思を示すものです。

【著者コメント】

Nathaniel Lee 氏（筆頭著者）

「レプトスピラ症は世界中で発生しており、気候変動に伴う極端気象の増加により、今後さらに流行の頻度や規模が拡大する可能性があります。それにもかかわらず、患者さんにとって最適な治療法に関する強固なエビデンスはまだ十分ではありません。本論文が、この疾患に苦しむ患者さんの予後改善につながる国際共同臨床試験の出発点になることを期待しています。」

【論文情報】

タイトル：

Leptospirosis—clinical review and updates on therapeutics

著者：

Nathaniel Lee, Takeshi Tanaka, Nobuo Koizumi, Charles Coughlan, Ana Ria Sayo, Koya Ariyoshi, Tansy Edwards, Chris Smith, Robin Bailey

掲載誌：

The Lancet Infectious Diseases

公開日：

2026年4月17日（オンライン掲載）

リンク：

[https://www.thelancet.com/journals/laninf/article/PIIS1473-3099\(26\)00060-5/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/laninf/article/PIIS1473-3099(26)00060-5/fulltext)



【参考情報】

・ Dr. Nathaniel Lee

<https://www.lshtm.ac.uk/aboutus/people/lee.nathaniel>



- ・田中 健之 教授

<https://www.tmgh.nagasaki-u.ac.jp/professors/takeshi-tanaka>



<https://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/internal/message/>



- ・ Christopher Smith 教授

<https://www.tmgh.nagasaki-u.ac.jp/professors/christopher-smith>



【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学熱帯医学研究所 臨床感染症学分野 教授 田中 健之

E-mail: ttakeshi@nagasaki-u.ac.jp